

令和5年度(2023年度)第1回熊本・上益城地域保健医療推進協議会(要旨)

協議会名：熊本・上益城地域保健医療推進協議会
開催場所：熊本県医師会館 6階大会議室
開催日時：令和5年(2023年)8月3日(木) 14:30~16:00
出席数(委員)：24名(内訳；熊本市16名、上益城8名)
※欠席者6名(熊本市0名、上益城6名)

「議題1」：第7次熊本・上益城地域保健医療計画の総合評価

【質疑応答】

- 本委員(県看護協会・熊本市)
 - ・資料1-2、8P「働く世代の健康づくりの推進」の評価指標について、3項目とも後退しているが、総合評価は「一定程度推進」となっている。どのように考えたら良いか。
⇒新型コロナが5類に移行したことや、今年度から会議等を再開するため、評価指標と今後の取組みを総合的に評価して一定程度推進と評価をしているが、今後更に取組みが必要な項目だと考えている。(御船保健所)
- 本委員(県看護協会・熊本市)
 - ・資料1-2、9P「糖尿病」の評価指標について後退しているが、現時点の全国の割合と比較しての後退ということで良いか。
⇒全国の割合はこの場で回答できないが、県全体としても新型コロナの影響もあり、これらの指標が令和3~4年度は後退している。各関係機関との連携体制が整っており、今後活動を再開するため、「一定程度推進」という評価をした。(御船保健所)

【ご意見等】

- 菊池委員(公募委員・熊本市)
 - ・資料1-2、2P「生涯を通じた健康づくり」の指標番号10・18・19番について、特定健診の実施率向上に向けて、とても悩まれて工夫がされてきたと思う。特定健診の実施はプロセス目標であり、最終的な目標は健康増進だと思う。特定健診を入口として、健診でスクリーニングした方に対するフォローの質を上げることが非常に重要であり、健康な人が増加し、社会全体の医療費負担が減ることを期待する。CKD等について、大学等の関係機関とプロジェクトを設置し、特定健診や保健指導のテーマごとに進める方が良い。
 - ・資料1-2、10P「災害医療の研修や訓練」について、保健所では新型コロナウイルス対応を優先したことにより実施できなかったと十分承知しているが、オンライン等を利用すればある程度実施できたかもしれない。オンライン等を活用して充実を図ることも検討してほしい。
- 加藤委員(会長・学識経験者・熊本市)
 - ・アウトプット評価とアウトカム評価が整理されていないので、第8次計画では整理した方が良い。
 - ・過去の経緯から、評価指標を変更することは難しいと思うが、正しい指標を加える等検討いただきたい。
 - ・会議や研修の開催について、DXを使った技術もあるため活用していただきたい。
- 松本委員(学識経験者・熊本市)
 - ・後退している評価指標がある中、総合評価では「一定程度推進」となっている項目が多数見受けられる。肥満傾向児や虫歯のない幼児の割合がこの1年で劇的に改善するとは思

えない。厳しい意見だが、「十分に推進できない」という評価をし、コロナ禍が影響したのかどうか分析・総合評価を行う必要がある。

- ・コロナ禍が影響した、又はコロナ禍に関係せずに悪化したものがあると思うので、第8次計画を立てるときに反映ができると思う。

□加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- ・マイナス面はマイナスでしっかり評価しないといけない。行政はマイナス評価を嫌われるが、きちんと評価した方が良い。今日の委員会のメンバーの意見ということで、もう一度分析・評価に取り組んではいかがか。

⇒今回の総合評価は、「概ね予定どおり推進」「一定程度推進（4割以上8割未満）」「十分に推進できない」という評価と、後退や維持等の二重の指標があり非常に分かりづらい点について、申し訳なく思っている。今年度末が正式な第7次計画の総合評価になるため、それまでにはどのように評価したということをし、きちんと説明できるようにしたい。（御船保健所）

⇒県は昨年度の総合評価において令和5年度の終期をめがけて、どれぐらいあと1年で進むかということ踏まえて総合評価を行った。今回の各保健所の今年度の取組を踏まえたものと少し知見が異なる。県庁における昨年度の総合評価も「概ね予定どおり推進」「一定程度推進」「十分に推進できない」の3段階とした。評価指標及び取組を総合的に評価しているが、指標が後退している中で総合評価が適切かどうかということは議論にもなった。第8次計画でしっかり見直しを進めていきたい。（熊本県健康福祉政策課）

「議題2」：第8次熊本県保健医療計画策定方針
「議題3」：第8次熊本・上益城地域保健医療計画（圏域編・別冊）策定方針

※「議題2」「議題3」は併せて協議を実施。

【質疑応答】

○丸目委員（市薬剤師会・熊本市）

- ・熊本市と上益城の糖尿病の指標が異なっている。熊本市の指標は、特定健診でHbA1c6.5%以上、8.4%以上になっているが、上益城はHbA1c5.6%以上、6.5%以上と指標が異なっているためどのように比較したらいいか。評価指標が統一されていないと分かりにくい。
- ・糖尿病の早期発見、早期治療、重症化予防と記載がある。発症予防や早期発見をどうするかが重要であり、患者数が増えているため早期発見が一番大事だと思う。特定健診受診率があまり上がってないため、早期発見を強化していただきたい。

⇒糖尿病については、発症予防として特定健診の受診結果等を見ていく形になると思うが、糖尿病対策では治療中の方の医療面が中心となっている。子どもの頃からの生活習慣病予防として、学校や保護者の世代の方々へのアプローチが必要だと考えている。

また、妊娠糖尿病がある妊婦には、産後のフォローとして保健師が個別に支援をしている。若い世代の方々等、幅広い世代の方にもアプローチをして早期発見につなげていきたいと考えている。健康アプリの事業等のインセンティブも活用しながら、健康づくりを一体的に進めていく。（熊本市医療政策課）

⇒保険者の立場で、特定健診受診率向上対策として健診受信者の支援をしているが、この計画と別にデータヘルス計画といったものを策定している。その中に具体的な取組の方向性を示し、この計画との整合性を図りながら進めている。本市の対象者は重度の方を対象としており、まず重度の方を重点的に保健事業につなげているためにこのような指標になっている。（熊本市国保年金課）

- ・特に糖尿病の場合は透析患者が増加しており、医療費をひっ迫している。例えば、検査キットを薬局に配布する等により、薬局に来られた方に検査等を実施し、数字が高い方に対して受診を促す方法ができないかと思った。

○渡辺委員（市歯科医師会・熊本市）

- ・第8次計画における歯科医療対策はどこに盛り込まれるのか教えていただきたい。歯科保健に関しては前進ということで、「3歳児の虫歯のない者の割合」や「12歳児の虫歯のない者の割合」は、確かに前進しているが目標に達していない状況。今後は違う項目・評価

で見ていくということなので、その方法を教えてほしい。

⇒数値の改善という意味で全体的な評価としては、概ね達成となっている。第8次計画の項目の、7番・8番・9番に、それぞれ歯科保健の分野も含め、生活習慣病予防対策ということで描かせていただきたい。また、歯科保健について、今年度中に健康増進計画や歯科保健計画等の改定を行うことになっているため、連携しながら個別の計画の中で、歯科保健について引続き取組みを行う。(熊本市医療政策課)

- ・妊娠中に歯科健診及び指導を受ける者は増えているが、今年度から妊婦中の歯科健診を全部歯科医師会が担当するようになった。おそらく今後は受診率が悪化すると思われるため、維持もしくは前進する方向で推進していきたい。

○田中委員(県栄養士会・熊本市)

- ・資料3-1、7Pの特定健康診査の実施率について、上益城地域は特定健診の実施率については指標があるが、保健指導の指標はない。理由を教えてください。

⇒なぜ特定健康診査の実施率だけなのかという点について、策定当時に指標を定めているため明確な理由は分からないが、保健指導実施率は上がっている状況。保健指導の成績は良い方だが、ご意見を第8次計画に反映したい。(御船保健所)

○住永委員(県議会議員・上益城)

- ・資料3-1、6Pのへき地医療、山都救急医療圏について記載があるが、実際に田舎の方の病院がなくなり、非常に問題になっていると感じる。引き続き医療の確保の取組みが必要と書いてあるが、具体的にどのような取組みを行うのか伺いたい。

⇒上益城管内山都町の3か所のへき地診療所には、熊本大学病院等から医師の派遣等について支援を受けている。そよう病院はへき地医療拠点病院になっており、医療機関からの人的な支援が続いているが、抜本的な解決には至っていない。人口減少が進んでおり、人材確保はますます厳しくなっており、現状把握と改善策を一緒に考えていきたい。(御船保健所)

○堀田委員(市PTA協議会・熊本市)

- ・資料の1-2、3Pの指標番号19番の特定保健指導実施率は目標値から少し離れていると感じるが、目標値から大きく離れている指標もある。目標から離れている項目に対して、人・時間・資金という、限られた資源を注力してやってくるのか、それとも全部やっていくのか。

⇒県として持つておくべき指標をまず県が第8次計画については示す予定になっているため、それに向けて我々も取組む。実績が目標値に近づかない項目については力を入れ、達成している項目は少なくとも低下しないよう、県の指標を意識しながら今後取り組んでいく。(御船保健所)

【ご意見等】

□菊池委員(公募委員・熊本市)

- ・資料3-2糖尿病対策について、HbA1cは悪くはないが、実際にリアルタイムの測定をすると食後高血糖あるいはスパイクと呼ばれる症状が、かなりの確率で見つかっている。学会等の新しい知見を反映した対応策や指導を、ガイドラインとして示しても挑戦的だと思う。

- ・歯科保健医療対策について、口腔中を清潔にすると誤嚥性肺炎等の感染症が減るという体験をしている。高齢化が進むと、口腔ケアが疾病予防に重要である。できるだけ直近のエビデンスがある知見を計画に反映してほしい。

- ・脳卒中・心筋梗塞関係について、最近のアメリカ等の調査によると、週に1回8000歩以上歩くだけでも、10年後も健康が維持できているという報告が複数ある。過重な負荷ではなく、日常できるような歩行だけでも実は健康が維持できる可能性がある。そのような知見を専門家のご意見を踏まえて反映できたら面白いと思う。

□山下委員(そよう病院・上益城)

- ・へき地医療と救急医療に関して私たちも力入れており、今後ともご支援いただきたい。よく人・金・物と言われるが、まず人に関して、県から自治医科大学の卒業生や地域卒の熊本大学の医師を派遣していただいている。また、熊本県地域医療拠点病院ということで大学

病院から専門医研修に来てもらっているが、特に救急に関して私たち 5 人で当直をしており、県内 3ヶ所のへき地医療拠点病院の中では、一番少ない人数で何とかまわしている状況。人に関しては、自治医科大学の医師や地域枠の医師を、今後も県に派遣してほしいと思っているため、御協力いただきたい。

- ・お金について、私たちも採算がとれるよう経営基盤維持するような形で病院を存続しているが、公立病院は病床削減や人件費削減という方向になっている。これ以上病床削減や人員削減の指示がされると、人がいても病院が存続できない状況になりかねないため、県の交付金等を継続していただきたい。

□小山委員（市民生委員児童委員協議会・熊本市）

- ・資料についてぜひお願いしたい点がある。大変沢山資料いただくが、皆さん全部目を通していらっしゃるのか。できれば、ポイントを記載した概要版と一緒にそろえていただきたい。資料はすべて大切なのは分かるが、ぜひ事務局には工夫していただきたい。

□加藤委員（会長・学識経験者・熊本市）

- ・資料は並列的に記載されているため、概要版があった方が分かりやすい。手間かもしれないが、意義のある会議にするためにぜひ概要版の作成をお願いしたい。

「議題4」：その他

※特になし

後日寄せられたご意見

□坂田委員（薬剤師会上益城支部・上益城）

- ・第7次地域計画の総合評価では、資料1-2の現状・進捗状況の評価・総合評価において、一致していないと思う部分があり、「可」なのか「否」なのか迷った。残りの終期で達成を急ぐべきではないと思う。
- ・第8次地域計画では、熊本・上益城の共通編で同じ指標を用いる、評価を細かく区切る（5段階にする）等、もう少し納得しやすい形にならないかと感じた。
- ・資料2-2、資料3-2は、整合性を図ったと説明されたが、分かりやすくて良かった。
- ・第8次地域計画で、第2編・第3章・第2節の中に「腎臓病」を一つの項目として取り上げることはできないか。熊本県及び熊本・上益城では、透析の方が多いと聞いており、今後増加すると予想できる。本人のQOLの低下や医療費増加等、マイナス面は大きいいため、しっかりした取組みが必要。CKD対策等は既に取組んでおられるため、一つの項目として独立させるべきではないか。
- ・感染症対策では、「結核」への取組みが達成できている。若年層の間で、「梅毒」が増加していると聞く。更なる取組みをお願いしたい。